

10.紅皮症 (剥脱性皮膚炎)

■病態および臨床症状

全身の皮膚が潮紅(多くの場合顔から始まり、しだいに全身に紅斑や丘疹が広がる)し、落屑(落葉状)と浸潤を伴った状態となり、剥脱性皮膚炎ともいいます。

主な症状としては、全身の皮膚が赤くなる、皮膚のカスがボロボロ落ちる、発熱を伴うなどがあります。

■症例報告

患者	性・年齢	男性 60代
	使用理由 (合併症)	発熱 肺癌術後
1日投与量/投与期間	ボルタレンサポ50~200mg/日(総量1,250mg)15日間、 ボルタレン錠75mg/日(総量300mg)4日間	
咳嗽、喀痰出現。息切れが出現し、症状の増悪のために某院受診。胸部X線にて異常陰影指摘され、翌月に内科にて左肺癌と診断。2カ月後、左肺全摘術施行され、ボルタレンサポ投与開始、同時に抗生剤を5日間、セフォタキシムナトリウムを10日間点滴静注。術後11日後ボルタレン錠追加投与開始し、硫酸アミカシンを2日間点滴静注した。		
時間経過	症状および処置	
術後15日後	全身性皮膚発疹出現、全身状態良好なるも白血球減少傾向、肝機能不全傾向を示し、術後紅皮症と診断された。	
16日後	ICU入室し薬剤投与を全て中止し、コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム1.5g/日投与し、無菌状態を保った。白血球1,500と著明低下、全身状態は良好であった。	
19日後	午後より白血球600と低下、血圧低下を呈し、昇圧剤にも反応なし。	
20日後	呼吸不全で挿管、3時間半後に死亡(死因:敗血症によるショック)。	
併用薬	抗生剤、セフォタキシムナトリウム、硫酸アミカシン	

■主な対処(処置)方法

- ・ 副腎皮質ステロイド薬の外用・内服・点滴(重症度に応じて)